

新宿ピカデリー

新宿に新たな都市型シネコンが誕生

さまざまなレジャー・娯楽施設が点在する新宿に、昨年七月、またひとつ新たなエンタテインメントスポットが誕生しました。

靖国通り沿いの一角にオープンした新宿ピカデリーは、旧「新宿松竹会館」の老朽化により二〇〇六年に閉館した「新宿ピカデリー1・2・3・4」に替わって建設された、十スクリーン、二千二百三十七席を擁する都内最大級のシネマコンプレックスです。

地下二階・地上十二階の外観は、ピュアホワイトとガラスが基調。シネコンの多くが内装に「黒」を多用しているのとは対照的に、エントランスやメインロビーなどの主な内装も「白」で統一されています。「真っ白なシアター」というコンセプト通りの、明るく開放的な雰囲気印象的です。

館内の構造も非常にユニークです。従来のシネコンは、一般的に十前後のスクリーンを二フロアまたは三フロアに配置しています。それに対して、同施設

では四階に一つ、七階に二つ、九階に三つ、十一階に四つ、とスクリーンを四層に分散。

さらにメインロビーは三階に、プライベートルーム型のプラチナルームやプラチナシートを5階バルコニーに設けるなど、限られた面積の建物内にスクリーンやロビーを重層的に積み重ねた、都心部ならではの新しいシネコンの建物スタイルを採用しています。

上映時間に合わせてたくさんの人が移動するシネコンにおいて、快適な空間づくりのポイントとなる動線計画にも通常以上の工夫が施されています。その重要な役割を果たすのが、一階～三階まで貫く巨大な吹き抜け空間。吹き抜けを中心の時計回りの動線を作ること、行きと帰りの客を交錯させずに誘導できるようにしました。

大階段に隣接した地下一階から地上二階部分には、無印良品の都市型旗艦店「MUJI新宿」が入



ハイルーフ車など、様々な車種に対応した乗込口



乗込口も白1色で仕上げ、ビルの外観とイメージを統一

【建築概要・規模】
 [建築主] 松竹(株) [敷地面積] 1,614.18㎡
 [建築面積] 1,428㎡ [延床面積] 14,967.02㎡
 [構造規模] 地上12階、地下2階
 [設計・監理] (株)松田平田設計
 [施工] 大成・西松・東急建設共同企業体

【駐車設備概要】
 機種／LEVELパーク《水平循環方式》
 型式／NLPLSR2A3-24FD-BU
 収容台数／大型乗用車48台(うちハイルーフ車24台)



新宿ピカデリー外観

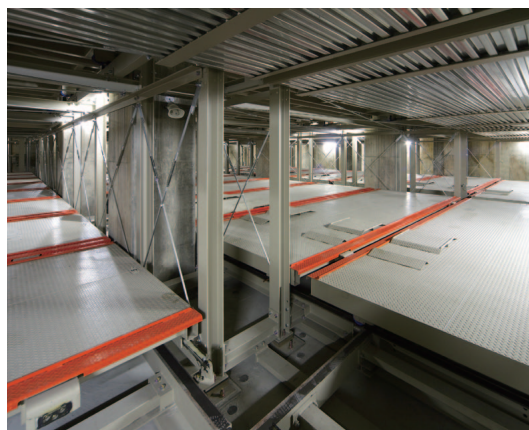
すべての人にやさしいバリアフリー設計

居「MUJI」ブランドでの出店は全国三店舗目という話題性も手伝って、地下1階に併設された「Cafe & Meal MUJI」とともに、オープン以来、大きな話題を集めています。

靖国通りに面し、スペース的にも余裕がなかった新宿ピカデリー。パーキングには、地下空間を有効活用でき、しかもスピーディーな車の入出庫が可能な駐車設備が求められました。そこで採用されたのが、様々な地下レイアウトにフレキシブルに対応する日精の水平循環方式「LEVELパーク」です。

今回の納入にあたって、通常は二列の

りー設計を採用したことで、高齢であることや障害のあるなしに関わらず、すべての方に安心してご利用いただけます。重層的な構成と開放感あふれるデザインにより、まったく新しい都市型シネコンを作り上げた新宿ピカデリー。日精のパーキングシステムは、そんな快適な鑑賞空間への入り口として、重要な役割を担っています。



LEVELパークの特性を活かし、循環部を3列で構成



段差のないフラットトレー

収納台数は四十八台(そのうち、二十四台がハイルーフ車対応)。交通量の多い場所柄、新宿ピカデリーの訪問者以外にも有料駐車場として広く利用されています。

2階平面図

乗込口スペース



地下2階平面図

